

巻頭言

ガラス産業を取り巻く環境と ニューガラスフォーラムへの期待

Expected Roles of NGF under the Current Glass Industry Environment



経済産業省素材産業課長

茂木 正

Tadashi Mogi

Ministry of Economy, Trade and Industry

Material Industries Division, Manufacturing Industries Bureau

本年6月17日の経済産業省の組織再編に伴い、素材産業課長に着任いたしました茂木正と申します。日頃より経済産業行政にご理解とご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

経済産業省では素材産業の共通課題に柔軟に対応し、競争力強化に向けた取組を効率的に推進していくため、組織再編を行いました。ガラス産業等の窯業を所管しておりました住宅産業窯業建材課は、化学産業や紙業などとともに「素材」を一つに集約した組織として再編され、素材産業課となりました。組織は変わりましたが、今後も本フォーラムでご尽力されています皆様のために力を尽くしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨今の技術革新によって「ガラス」という素材の有用性は飛躍的に高まり、住宅・建築物、自動車、各種エレクトロニクス製品や光学機器、医療用具に至るまで、高機能化された優れたガラス製品が供給されることで、日本のみならず世界の人々の暮らしは大きく変わり、豊かになっています。こうした発展の中で、依然として日本企業は、その技術的な優位性のみならず、世界市場の中での売上あるいはシェアといった数字においても優位性を保ち続けております。ニューガラスフォーラムはこれまで「ナノガラス技術」、「三次元光デバイス高効率製造技術」といった政府が支援する研究開発プロジェクトにおいて中心的な役割を担い、我が国ガラス産業の技術的な強みの蓄積において大きな寄与を果たしてこられたと承知しております。

しかしながら、昨今は新興国の追い上げも激しくなり、我が国ガラス産業としても、今後如何に成長を維持していくかを真剣に考えなければなりません。世界 196 カ国が温室効果ガス削減を約束する「パリ協定」が今月 4 日に発効します。こうした枠組みの下、我が国は、エネルギー起源 CO₂ を 2030 年度に 2013 年度比▲25.0% とすること等とした約束草案を着実に実施していかなければなりません。この約束草案においては、ガラス産業を含む産業部門全体に対し同▲6.5% の削減目標が、業務その他部門、家庭部門、運輸部門に対し、全体で同▲35.7% もの削減目標が設定されております。建築物・自動車等に用いられるガラス製品の断熱性能向上・軽量化等は、社会全体の CO₂ 削減に大きく貢献することが可能です。製造工程の省エネ化を着実に進めて頂くと共に、この機を、我が国のみならず世界に対して高付加価値なガラス製品を売り込むビジネスチャンスとされることを期待します。

また、近年は IoT・ビッグデータ・人工知能などによる産業構造の変革が従来にないスピードとインパクトで進行しています。我が国は、需要・供給両面において様々な構造的な成長制約を抱えていますが、「第 4 次産業革命」とも呼ぶべきこれらの変革は、我が国の産業構造、就業構造及び経済社会システムの変革をもたらし、個々人の働き方や生活様式を一変させる可能性が高いと考えられます。この「第 4 次産業革命」では、「戦略」、「スピード」、「オープン（脱自前主義）」が一層重要であり、ガラス産業もこうした変化に迅速に適応していくことが求められます。近年、例えば炭素繊維やセルロースナノファイバーといった、従来の金属材料や高分子材料に置き換わりうる様々な革新素材の開発が進んでおり、素材間競争が激化しつつあります。こうした中、ガラスは他の素材では実現できないような特性を多く持った夢の多い素材と承知しております。強みを生かしつつ今後もさらに新たな付加価値を創出し、ガラスが我が国の素材産業の牽引役となることを期待します。

今日のような大変革時代において、ニューガラスフォーラムの技術開発およびその実用化・普及に向けての様々な取り組みが、技術革新による製品の高機能化・高付加価値化・省エネルギー化をもたらし、ガラス産業の確固たる競争力を維持し続けていくことを願っています。最後になりますが、ガラス産業に関係する方々およびニューガラスフォーラムの皆様の益々のご活躍を祈念いたします。